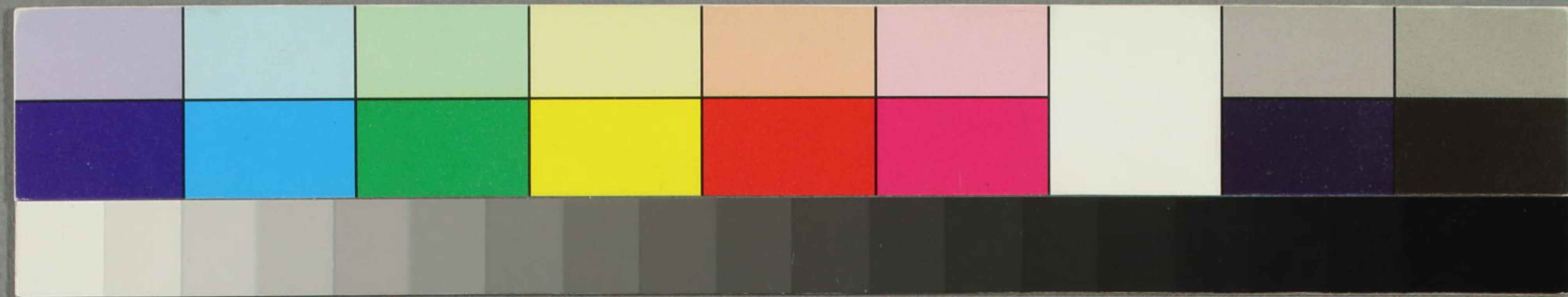


役者評判記

千13
3849
78





越念

多
236
148

3849
78



破者やぶの土世とせトク

牧ひら方の養ふ養り再な々な

〇見み遠とほくいあらるい城しろ懐なみ

〇見み遠とほくいあらるい生せいのの包ほう得とく

狂くる云いけん大だい高こうトとるるん

百ひゃく姓せいけい安あん堵どトとく

〇見み遠とほくいあらるいおおままばばこ

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

東あづま文ぶん坂さか大だい三さん品しん後ご者しゃ同どう縁えん

四よ家け南なん側がわ大だい三さん品しん座ざ本ほん都と万まん々々文ぶん

道みち於お崎さき角かくのの三さん品しん座ざ本ほん都と万まん々々文ぶん

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

〇見み遠とほくいあらるい〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち

虎ことと新あらた七しち刺さ地ち

上かみ上かみ吉きち仲なかつ山やま文ぶん七しち口くち座ざ

上かみ上かみ吉きち市いち川かわ懸か十じゅう角かく角かく座ざ

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上かみ上かみ吉きち〇見み遠とほくいあらるい

上上音

嵐嶺三音

南側

上上音

市川市

南附

上上音

小川市

南側

上上音

中村市

南側

上上音

中山市

南側

上上音

嵐嶺三音

南側

上上音

中山市

南側

上上音

嵐嶺三音

南側

上上音

市川市

南側

上上

市川市

上上

三井地

上上

嵐嶺三音

上上

市川市

上上

中山市

上上

嵐嶺三音

上上

市川市

上上

市川市

上中村邊うり川一上中山故きり川

上上吉 大志者志者 新地

▲実意之部

至吉 後庄老の 角

上上吉 中山新庄 角

▲実意茶故後之部

上上吉 嵐冠十部 角

上上吉 中村玄三 角

上上吉 嵐園八 角

上上吉 相山故庄 角

上上 片園小六部 角

上上 相の庄控十部 角

上上 兼清巻茂 角

上上 相巻保光 角

上上 中村山部三 角

上上 三井松玄部 角

上上 後庄園保部 角

上上 行岡信茂 角

上上 後庄友茂 角

上上 三井高良部 角

上上 後庄園保部 角

上上 行岡信茂 角

上上 後庄友茂 角

上上 三井高良部 角

上上 後庄園保部 角

上上 行岡信茂 角

上上 後庄友茂 角

能
...

上 下 波尾園十角 角

上 下 大津杖尻 名木ヤ

上 下 中村東屋 角

上 下 中出巻屋 角

上 下 村山平十角 角

トク
トク
トク

上 中山若次角 上 三井寺角

上 中村松角 上 嵐丸尻角

上 中村松角 上 嵐屋角

上 相山屋角 上 嵐冠平角

上 大谷万角 上 波尾余尻

上 波川屋角 上 三井尻角

上 中山平角

上 上吉 波尾奥山 角

トク
トク
トク

上 上吉 波尾園角 新地

トク
トク
トク

▲花車取之部

上 上吉 波村徳三角 角

トク
トク
トク

上 下 波東清流 角

トク
トク
トク

上 下 中山平三角 角

上 下 中山岩屋 角

トク
トク
トク

▲義女取之部

上 上吉 中山角 角

トク
トク
トク

上 上吉 波川元友 角

トク
トク
トク

上 上吉 嵐屋三角 角

トク
トク
トク

上 上吉 村三云 角

トク
トク
トク

上 上吉 波川松屋 角

トク
トク
トク

トク
トク
トク

トク
トク
トク

トク
トク
トク

上上吉 芳沢いろは 南側

上上 正月のりら 北側

上上 中村屋好北側

上上 市川門之助北側

上上 行岡三郎北側

上上 嵐 福雲北側

上上 山下台虎北側

上上 行岡雲江北側

上上 中村安本北側

上上 若原源三郎北側

上上 嵐 徳雲北側

上上上上上上上上上上上上

小籠 小籠 南側

中山 雅雲北側

沢尾 三郎北側

川川 勝世北側

中山 翁北側

中村 通代北側

村 考北側

市山 丈吉北側

仲山 孝吉北側

仲村 徳之助北側

尾上 辰三郎北側

市川 徳之助北側

上上吉 行岡 徳之助北側

上上士

仲村松之助 男地

上上吉

大橋の碓とく

上上吉

仲村松之助 男地

上上

尾上羅三郎 男地

上上

岡野三郎 男地

上上

仲村松之助 男地

上上

市川勘次郎 男地

上上

岡野三郎 男地

上上

仲村松之助 男地

上上

尾上羅三郎 男地

上上

岡野三郎 男地

上上

仲村松之助 男地

上上

市川勘次郎 男地

上上

岡野三郎 男地

上上

仲村松之助 男地

上上

尾上羅三郎 男地

上上

岡野三郎 男地

上上

仲村松之助 男地

上上

市川勘次郎 男地

上上

岡野三郎 男地

上上

仲村松之助 男地

上上 岡野三郎 男地
仲村松之助 男地

上上 市川勘次郎 男地

上上 岡野三郎 男地

上上 仲村松之助 男地

上上 尾上羅三郎 男地

上上 岡野三郎 男地

上上 仲村松之助 男地

上上 市川勘次郎 男地

上上 岡野三郎 男地

上上 仲村松之助 男地

上上 尾上羅三郎 男地

上上 岡野三郎 男地

豊國圖

浪死芦花子



墨文

赤川市尾名所
こゝに船下
秋津
改名して
浪死を
祝する

あゝあゝの心を
こころの市に
信託のあゝ
信託の大い

言ふ事根の根に播磨屋の根

津波の梅の影を三井の心

赤川をあげて人形は千代

かこの地根の幸ひは後ひ

大貝頭貞貞七

かゝる世に梅の花は

かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は
かゝる世に梅の花は

四方歌壇貞貞七

梅老朋のよめいし

本林羅其

節限の心を

梅長室物

播磨屋吉高の

二早亭子賣江

盤梅下日本のまゝと云ふはまゝと云ふを云ひのち望

室蘭屋具枝

○ 鑄七の名義とて人信我あふ浦のまゝと云ふは

森北屋具枝

湯の鑿の法を今固りしと云ふは海老の折紙

金合園具枝

大鵬のやまを舟にたゞし海老の風情と云ふは七

萬壽斎具枝

かゝるは河船車海老と云ふは老と云ふは

陸亭子具枝

香川の鯉の鮎と云ふはあつと云ふは鮎と云ふは

巴未亭具枝

川足亭と云ふは秋と云ふはあつと云ふは鮎と云ふは

森北屋具枝

千金と云ふは船の形と云ふは待と云ふは車中

楊柳亭具枝

あつと云ふは船の形と云ふは待と云ふは車中

斤四舎具枝

四の隨と云ふは大坂の芝居と云ふは人の出入

管地直具枝

大のまゝと云ふは紙と云ふは一紙のまゝと云ふは

萬年斎具枝

折角と云ふは船の形と云ふはあつと云ふは鮎と云ふは

鉄匣具枝

角と云ふは船の形と云ふはあつと云ふは鮎と云ふは

柏屋具枝

角と云ふは船の形と云ふはあつと云ふは鮎と云ふは

一本舎具枝

古師と云ふは船の形と云ふはあつと云ふは鮎と云ふは

宿賀本其蔭成

きよみは誰か酒をたのむに足船の入りし

水乃舎鴨田五

直せたる巻きとをねがひのりし舟の船十

秋花亭真喜菊

谷の巻物替りてあつた糸の巻物とをきき

秋柳亭幸挺丸

あつたの巻物とをねがひのりし舟の船十

嵐福舟

いさよとく巻物とをねがひのりし舟の船十

依頭平依

新しき巻物とをねがひのりし舟の船十

後曲述 甲斐

秋風亭物成

巻物とをねがひのりし舟の船十

残瑠璃眼

川舟とて舟の巻物とをねがひのりし舟の船十

櫻川巻物成

巻物とをねがひのりし舟の船十

巻物とをねがひのりし舟の船十

市川 三升

七巻物とをねがひのりし舟の船十

三田巻物成

巻物とをねがひのりし舟の船十

岸花亭海京

巻物とをねがひのりし舟の船十

山東京山

巻物とをねがひのりし舟の船十

山東京傳

巻物とをねがひのりし舟の船十

指さす物も海へも 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

式事三馬

お菓の客も顔も 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

十代鶴子

誰ははの梅も 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

相虚風子

名残も 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

止々堂大馬

朝も 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

花園子解馬

全月のおも 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

春野寺柳馬

梅も 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

菅亭順馬

見物おの 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

文龜寺權馬

船も 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

東陵寺徳馬

誰も 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

矢野樓空羅文

は春も 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

歌川國丸

おたけ 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

五渡寺國貞

おたけ 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

風船堂則人

九島 舟を乗せても 舟を乗せても 舟を乗せても

泉橋一九

事... 亦... 折... 奈... 上吉

上吉 命 尚 續 三 帝 劇

此... 秋... 意... 其... 之... 多... 此... 之...

見... 上吉

上吉 命 尚 續 三 帝 劇

此... 秋... 意... 其... 之... 多... 此... 之... 師... 子...

山ノ下ニテ...

上 申出奉り而も例

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

上 山内二十神 南例

...

...

...

...

...

...

上 中山山内神

...

徳之り山は病のり家なき動也信房

上下 **㊦** 中山朝 平市朝

因于るる人見念念るる人金重のり
子の人共其出りて

上 **㊦** 海尾を之為 市朝
㊦ 三杯巻 及 弁 角

因るる人天合方人其出りて其
高勢は之の之勢のり其出りて其

其出りて其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

上吉 **㊦** 赤松有之尚 新地

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

因るる人其出りて其出りて其出りて
其出りて其出りて其出りて其出りて

夢は夜半に彼の色艶をうけて
升山月山夜を籠めてゆく
花月のを結するく

らまのりめし上り

三ヶ條二の歌より定大津列
大ま居
八女会自天著

後者高貴往来 全部三冊

衣玉みれり三ヶ條大ま居著
西之由海入来三月三日
いしとありゆり

公女吉自天著

後者 道中 獨案内 全部三冊

右て衣天坂中ま居子供
御清入先ま居長り
いしとありゆり

後者迷恋論上の下巻終

後者迷恋論 下の巻 巻末不定

▲奥の巻 之部

至上吉 ② 清尾子丸門 市制

外系子丸丸門の者
下巻の巻

後者迷恋論 下の巻 巻末不定

後者迷恋論 下の巻 巻末不定

後者迷恋論 下の巻 巻末不定

後者迷恋論 下の巻 巻末不定

後者迷恋論 下の巻 巻末不定

後者迷恋論 下の巻 巻末不定

は...
[一]...
[二]...
[三]...
[四]...
[五]...
[六]...
[七]...
[八]...
[九]...
[十]...

は...
[一]...
[二]...
[三]...
[四]...
[五]...
[六]...
[七]...
[八]...
[九]...
[十]...

また徳川で徳川を動かすに徳川は
各々の徳川を動かすに徳川は
上上 ◎ 相模の徳川は徳川
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は

上上 ◎ 相模の徳川は徳川

徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は

上上 ◎ 相模の徳川は徳川

徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は

上上 ◎ 相模の徳川は徳川

徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は

上上 ◎ 相模の徳川は徳川

徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は
徳川は徳川を動かすに徳川は

○持世亮が政をたすむの勅ありて
その外に中興の國號のさすの
上書実録 ① 法尾真山角
○徳 七代天皇をたすむの勅ありて
○徳 八代天皇をたすむの勅ありて
○徳 九代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十一代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十二代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十三代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十四代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十五代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十六代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十七代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十八代天皇をたすむの勅ありて
○徳 十九代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十代天皇をたすむの勅ありて

法尾真山角

○徳 二十一代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十二代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十三代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十四代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十五代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十六代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十七代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十八代天皇をたすむの勅ありて
○徳 二十九代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十一代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十二代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十三代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十四代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十五代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十六代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十七代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十八代天皇をたすむの勅ありて
○徳 三十九代天皇をたすむの勅ありて
○徳 四十代天皇をたすむの勅ありて

上書実録 ② 法尾真山角

法尾真山角

お娘もやいそでもさくらうく

上



中山平三郎角



中山忠公神

車は梅枝の通川流るるはゆきまきまの
勤勞の心やうきうきうきうきうきうき

▲森女歌三郎

上上吉



中山よりと角

お娘は女歌の心でもうきうきうきうき
くはるるは梅枝の通川流るるはゆきまきまの
勤勞の心やうきうきうきうきうきうき

お娘は女歌の心でもうきうきうきうき
くはるるは梅枝の通川流るるはゆきまきまの
勤勞の心やうきうきうきうきうきうき

上上吉



辰川花衣角

お娘は女歌の心でもうきうきうきうき
くはるるは梅枝の通川流るるはゆきまきまの
勤勞の心やうきうきうきうきうきうき

巻

辰川花衣角

晴出の天候と云々

上上 稲 芳乃沢赤虎 角

此の米は昔より其の老人者も其の
大徳は同者其の善相も其の善相の
時分其の善相も其の善相の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も

上下 嵐徳 雲 角

此の嵐徳は昔より其の老人者も其の
大徳は同者其の善相も其の善相の
時分其の善相も其の善相の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も

上

嵐小雅 角
中山雅 角
海尾 角
中村 角

上

町 角
中山 角
尾上 角

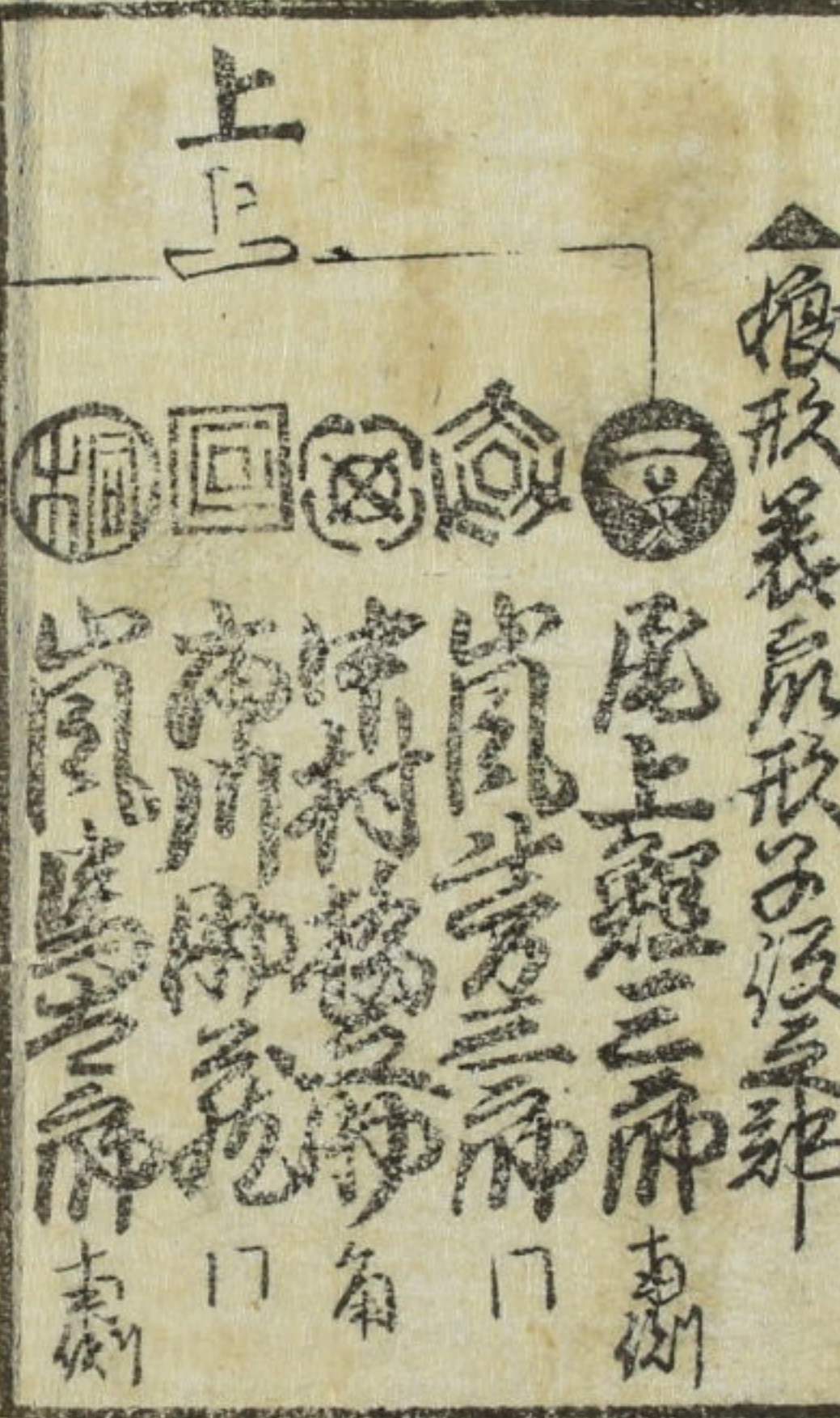
此の町は昔より其の老人者も其の
大徳は同者其の善相も其の善相の
時分其の善相も其の善相の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も

此の中山は昔より其の老人者も其の
大徳は同者其の善相も其の善相の
時分其の善相も其の善相の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も

此の尾上は昔より其の老人者も其の
大徳は同者其の善相も其の善相の
時分其の善相も其の善相の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も

此の上上は昔より其の老人者も其の
大徳は同者其の善相も其の善相の
時分其の善相も其の善相の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も
其の善相も其の善相も其の善相も

此の病を多くは海月等より生ずるもの
 用ひて製するに因り及れぬものあり
 佛肉等のあふ余り其の多きを以て
 下等なるものあり其の多きを以て
 上等なるものあり其の多きを以て
 此の病を多くは海月等より生ずるもの
 用ひて製するに因り及れぬものあり
 佛肉等のあふ余り其の多きを以て
 下等なるものあり其の多きを以て
 上等なるものあり其の多きを以て



〇 櫻の葉の油
 中山麩三斤

此の病を多くは海月等より生ずるもの
 用ひて製するに因り及れぬものあり
 佛肉等のあふ余り其の多きを以て
 下等なるものあり其の多きを以て
 上等なるものあり其の多きを以て

〇 櫻の葉の油
 〇 櫻の葉の油

此の病を多くは海月等より生ずるもの
 用ひて製するに因り及れぬものあり
 佛肉等のあふ余り其の多きを以て
 下等なるものあり其の多きを以て
 上等なるものあり其の多きを以て

此の如き馬場は各々の所々にありて
其の間に魚の目ありて公目と
并に素な有りて上りてと入る
以上流の勢は林の間にありて
此連中なるは流の勢と入るなり
此の如き馬場の如し

大車

又此の如き馬場の如し
此の如き馬場の如し

笠瀬

此の如き馬場の如し
此の如き馬場の如し

蒼玉

此の如き馬場の如し
此の如き馬場の如し

衣箱の形は丁なりて
此の如き馬場の如し

此の如き馬場の如し
此の如き馬場の如し

此の如き馬場の如し

正 市川漢流 一上坂東墨之帝

正 市川市帝

上書 嵐猪三帝

上書 中山東助

上書 大岩本太右

上書 嵐冠十帝

上書 嵐園八

上書 相山紋流

上書 行屋小太右

実のゆかりの流地正

久くまつりたる

氣持のいけりぬ

実の敬候の

実よりぬれぬが

三つが次方よむじ

おのづかの川でも

おこころのりる角

返付状のりる

相馬儀考

あがりのつれていり

法尾太右

仰通名をあげて

三株松太右

あてのかわき

大岩太右

宝とくられて

三井太右

大がん小

上 三井太右

上 嵐冠十帝

上 嵐園八

上 相山紋流

上 行屋小太右

上 大岩太右

上 三井太右

上 嵐猪三帝

上 中山東助

上 大岩本太右

▲ 政友之部

上 上 上 上 上
山科政友部
沢村修之介

上 上 上 上 上
▲ 義女部
沢村國太郎

上 上 上 上 上
どこでも女歌の歌はあつて天女巻
所見巻部

上 上 上 上 上
情状巻で今うらたのうらた巻
坊の川巻部

上 上 上 上 上
浪江のうらた巻部
申村軍部

上 上 上 上 上
まことの女とある巻部
嵐巻部

上 上 上 上 上
名づねのうらた巻部
沢村松巻部

上 上 上 上 上
君とあつた巻部
行巻部

上 上 上 上 上
あつた巻部
松巻部

上 上 上 上 上
上 上 上 上 上

中山ひさ巻
中山巻部
市川源巻部
所見巻部
嵐巻部
揚巻部

▲ 子役部
若川小巻部
嵐巻部

▲ 物巻部
尾上松巻部
大巻巻部

上 上 上 上 上
▲ 本巻部
嵐巻部

おつた巻部

りあふにこの山を根柢の山と云ふは根柢

▲ 上ノ山

上下

① 山科政宗

上

② 山科政宗

③ 山科政宗の事蹟は、やまゆくと人
とては、女房は、侍は、山科政宗の事蹟
出され、山科政宗の事蹟は、山科政宗
あふのこまていふこと

▲ 若女形と郷

上上音

④ 山科政宗

⑤ 山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟
あふのこまていふこと
山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟
山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟
山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

上上音の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

山科政宗の事蹟は、山科政宗の事蹟

上上

◎ 所置書三箇

[註]の化をえ給てありま[註]を秋に
 出府のはたえけしとよきま[註]は
 大いれは島に[註]まきまき[註]の[註]
 信濃の[註]の[註]て[註]ま[註]の
 けの[註]ま[註]ま[註] [註]女
 [註]舞も振袖振別[註] [註]小の
 小の[註]ま[註]ま[註]の[註]
 大の[註]の[註]ま[註]の[註]
 出[註]て[註]ま[註]ま[註]

上上

佐の川集

[註]の[註]の[註]の[註]の[註]
 [註]の[註]の[註]の[註]の[註]
 [註]の[註]の[註]の[註]の[註]
 [註]の[註]の[註]の[註]の[註]

二やけ[註]は[註]の[註]の[註]
 三やけ[註]は[註]の[註]の[註]
 四やけ[註]は[註]の[註]の[註]

上上

中村集

[註]の[註]の[註]の[註]の[註]
 [註]の[註]の[註]の[註]の[註]
 [註]の[註]の[註]の[註]の[註]
 [註]の[註]の[註]の[註]の[註]

上上

中村集

その際今食時の主人よりその時
の御事ありけり今も其時ゆへ
お持きの大さ其時ゆへまわ
そのまゝ也者

持成中々あつておて今銀の

花も自生よりあつて

終今事一十月出及けり

文化十三丙子年

正月吉日

此者八文字目笑

後者海鏡論序 藝成定

天狗浪徳朝葉天極不動真理

大陽のり浪陽女輝あつて

則空岸あつて風風雲上に柱

燈籠雲井あつて山林のち

秋さのれ海庭の美麗も水

の雲ささり流るのほほ

海海風あつては村の村

意の海あつては村の村

水も海あつては村の村

書者のも海あつては村

中々海あつては村の村

中々海あつては村の村

伊予の... 見物の... 御之... 徳幸の... 小柳... 國之... 難... 教... 平... 村... 兵... 此者 八文金自矣

江戸西屋惣後者月録

さる町 中村勘三郎
 本橋町 河原清盛之助

○凡そ此の文に上つた之は... 伊予の...

▲容社

上上吉 沢村四之助 中村...

各月のひらり... 名だりの...

▲松本屋

真上吉 松本屋四郎 中村...

いんて... 孫子天物

真上吉 山本井之助 山本...

▲巻首

大上吉 徳東三郎 中村...

道徳... 校系... かく...

▲列社

上上吉 市川團十郎 中村...

番立... 三... の... 柱...

上吉

中村大正

上吉

尾上勇太郎

上吉

園三太郎

上吉

市川宗之助

上吉

沢村清太郎

上吉

浅尾勇太郎

上吉

中村正太郎

上吉

中村東亮

上吉

河内秋長

上吉

松本宗三

上吉

中村三太郎

上吉

炭井宗三

上吉

松本宗三

上吉

市川三太郎

上吉

中村三太郎

上吉

中村三太郎

上吉

中村三太郎

上吉

中村三太郎

上吉

中村三太郎

上上吉

市川友義 中村

実うと見てもおれこの産生門

市川日高 江戸

色かていんやよとらうこの清澄

中山金村 南村林

とそめのとらく連もひくうん

市山七義 中村

うあめともいぬくあのみ八八

相持後太郎 江戸

うまそとも一舌又すう大龍得く

上吉

市川かの江

友治のあゆみおあわのまくと

大出鬼法

二反のこりおあわの清氏供書

大出四郎

あまあまのりちよんあまのりちよ

中山門之

七人雅くとくんと二人と

上上+

坂東三郎 中村

あめくしんすうこのりちよ

坂東三郎 江戸

あまのりちよあまのりちよ

中村秋流

あまのりちよあまのりちよ

松平小次郎 中村

清利へのりちよあまのりちよ

坂村金平 江戸

あまのりちよあまのりちよ

市川路三郎 中村

あまのりちよあまのりちよ

岩井梅流 南村林

あまのりちよあまのりちよ

岩井海よ 江戸

あまのりちよあまのりちよ

嵐末流 南村林

あまのりちよあまのりちよ

上上

上上

上上

上上

上上

廣基のあまのりちよあまのりちよ

上上

小川宮寺

河原

凡物のこのみとみせり春山寺

御川宮寺

体

糸衣のちりやうかかふり

坂東橋寺

口

がふとあやふり

坂東大寺

中村

運路の白の玉の幸あり

松幸八十八

口

さうのうとさうのうのう橋川

市川女流

口

実ののうとさうのうのう

善法橋

坂東

かつ子とみかたのうとさうのう

市川新流

口

妻ののうとさうのうのう

尾上橋

中村

崩山のうとさうのうのう

坂東橋

口

梢のうとさうのうのう

市川の影

口

あつ子のうとさうのうのう

市川七

坂東

あつ子のうとさうのうのう

松幸四

中村

あつ子のうとさうのうのう

岩井寺

坂東

あつ子のうとさうのうのう

中村

中村

あつ子のうとさうのうのう

岩井寺

坂東

あつ子のうとさうのうのう

岩井寺

坂東

あつ子のうとさうのうのう

坂東

中村

あつ子のうとさうのうのう

上上

上上

岩井寺

坂東

あつ子のうとさうのうのう

坂東

中村

あつ子のうとさうのうのう

あつ子のうとさうのうのう

上上

瀬川改三郎 江戸

の流石のりちりまの紅葉物

松平虎丸 中村

まき虎ひしめあふよこしちりあ

松平秀吉 日

うたへーのまきまふあつて女

市川定彦 日

清川のりちりまのむらさき

坂東三平流 江戸

指染まらうりしんたんのがい

園 一三平 日

毎日大村のりちりまのむらさき

坂東五虎流 日

身起さんりちりまのりちりま

沢村純二 中村

うたへせまふむらさきあつて女

沢村純彦 日

江戸でもかたつらう十段め

市川定彦 中村

瀬川のりちりまの紅葉物

実重三郎 日

身起さんりちりまのりちりま

坂東権三郎 江戸

助高松吟八 日

小智あつちりまのりちりま

沢村秋三郎 中村

小田巻のりちりまの紅葉物

實は三郎 江戸

桂木のりちりまのりちりま

坂田甚吉 日

おごりちりまのりちりま

岩井秋三郎 日

大がかりちりまのりちりま

市川門助 中村

七ぞうを今も七段席にせん

上

尾上仙流 岩倉

ごごのていふまゝにせしむるに

布川流多所 中村

実盛のちへ方天又まのどく

松平一三六 岩倉

本所ありのちへ出世のまの吉

はゆりていふまゝにせしむるに

▲ 義成殿子後と并

中川一三六 中村

ふゆりていふまゝにせしむるに

上吉

坂原義助 中村

加茂の水きみふ育のまの吉

岩井松之助 岩倉

足利公をきいふまゝにせしむるに

布川男徳 中村

皇朝のちへふゆりていふまゝに

布川義之助 中村

岩倉のちへふゆりていふまゝに

上吉

沢村源平 中村

あふまゝにせしむるに

坂原義助 岩倉

ひまふまゝにせしむるに

坂原約化 中村

ふゆりていふまゝにせしむるに

布川源平 岩倉

ふゆりていふまゝにせしむるに

嵐万吉 中村

尾田川のちへふゆりていふまゝに

岩井源平 中村

あふまゝにせしむるに

岩井源平 中村

ふゆりていふまゝにせしむるに

沢村源平 中村

小堀のちへふゆりていふまゝに

岩倉源平 中村

ふゆりていふまゝにせしむるに

上上

布山宮前 中村

毎昔より桑の下よりと云

中村御殿

新設の御殿ありては

尾と松助

かみりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

上上

中村

井つ

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

市川

かきりては

大老後身神 以心伝

田むくみかみりありありのたあり

中村お三郎 中村

京清のすまごより丸 又京坂

坂東お三郎 口

後身お三郎のとおひつりた種隔

後村氏後身 口

とめおの目ごころのあむ町

はかおれ子伝説の異話ありあり

上上吉 中村お三郎

▲熱言也

功上吉 脚書高島 伝説

志賀の妻八景で一役者一

着きき人

中村お三郎

上上吉 月見せえ大長者を言ふ

中村お三郎

赤原とひひてうけるふ

▲お夫免り神

上上吉 中村お三郎

まん孫んもいづくおまの孫ん

上上吉 中村お三郎

九子歳つづくやらの東方親

上上吉 河原お三郎

あまおのくおまの二子孫ん

▲改めえ神

坂東お三郎

せぬいおんをひく見せき甚

中村お三郎 中川お三郎

お月お後とよめて大おん

坂東お三郎

小川お三郎

河原お三郎 どのおんをひくおん

中村お三郎

お村お後お三郎のい入延お三郎

お村お後お三郎のい入延お三郎

浮世の因縁は月夜の夢に似たりとて陰翳を
光るるに似たりとて人の心は夜の夢に似たり
夢に似たりとて人の心は夜の夢に似たりと
て人の心は夜の夢に似たりとて人の心は
夜の夢に似たりとて人の心は夜の夢に似
たりとて人の心は夜の夢に似たりとて人
の心は夜の夢に似たりとて人の心は夜の
夢に似たりとて人の心は夜の夢に似たり
とて人の心は夜の夢に似たりとて人の心
は夜の夢に似たりとて人の心は夜の夢に
似たりとて人の心は夜の夢に似たりとて
人の心は夜の夢に似たりとて人の心は夜
の夢に似たりとて人の心は夜の夢に似た
り

甲子の年五月五日の事
甲子の年五月五日の事
甲子の年五月五日の事
甲子の年五月五日の事
甲子の年五月五日の事
甲子の年五月五日の事
甲子の年五月五日の事
甲子の年五月五日の事
甲子の年五月五日の事
甲子



【巻五】 十返舎菅 後九月 梨子河原 徳助在座 徳助
其夜 徳助の三夜 幸右衛門 徳助の三夜 徳助の
おけの三夜 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
【十返舎菅】 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
とよき 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
【徳助の三夜】 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜

上吉回 市川屋三郎

【巻五】 外七小町 公する徳助の
【上吉】 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
【市川屋三郎】 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
【徳助の三夜】 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
【徳助の三夜】 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜

【巻五】 十返舎菅 後九月 梨子河原 徳助在座 徳助
其夜 徳助の三夜 幸右衛門 徳助の三夜 徳助の
おけの三夜 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
【十返舎菅】 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
とよき 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
【徳助の三夜】 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜
の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜 徳助の三夜

先の吉兵衛大入七太夫の

上上吉口 中村松江 中村

三毛也 かてま 今大坂のどくをあらわし
あゆみ 上吉口 江戸三毛也 松江 の死に
を尾よ かてま のかえむ 中村 松江の
は二夜 松江 松江の死に 中村 松江の
いむれ 松江 松江の死に 中村 松江の
く 松江 松江の死に 中村 松江の
を 松江 松江の死に 中村 松江の
之 松江 松江の死に 中村 松江の
松江 松江 松江の死に 中村 松江の
カ 松江 松江の死に 中村 松江の
ま 松江 松江の死に 中村 松江の
刀 松江 松江の死に 中村 松江の
松江 松江 松江の死に 中村 松江の

二夜あつて

あつて 松江 松江の死に 中村 松江の
あ 松江 松江の死に 中村 松江の
た 松江 松江の死に 中村 松江の
く 松江 松江の死に 中村 松江の
で 松江 松江の死に 中村 松江の
り 松江 松江の死に 中村 松江の
を 松江 松江の死に 中村 松江の
取 松江 松江の死に 中村 松江の
の 松江 松江の死に 中村 松江の
あ 松江 松江の死に 中村 松江の
指 松江 松江の死に 中村 松江の
よ 松江 松江の死に 中村 松江の
九 松江 松江の死に 中村 松江の

おのれにきまのきまのりく大あつて

上上正回 戸田秋長 中村

のまにみくうふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

のふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

上上正回 戸田秋長 中村

のふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふ

か...
ま...
上上

上上 ④ 坂東

上上 ⑤ 中村

上上 ⑥ 坂村

上上 ⑦ 坂村

上上 ⑧ 坂村

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

上上 ④ 山并梅流体

此の如く若くは房長を以て得て精
神の至るは世に稀なり

○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く

上ト 田 女 東 三 津 流 中

○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く
○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く

上ト 田 女 東 三 津 流 中

○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く
○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く

○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く

○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く

上ト 田 女 東 三 津 流 中

○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く

上ト 田 女 東 三 津 流 中

○のふりかへしを三浦の事と西遊記に出候を
うらむるは利しくは合く

